

大野市子ども・子育て会議（第2回）会議結果の概要

日 時 令和元年10月17日（木）午後7時～午後9時

場 所 結とぴあ 302号室

1 会長あいさつ

青井会長より

2 議 事

（1）大野市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

【事務局】

第2期計画の新体系案、基本理念、基本目標、基本施策、子ども・子育て支援法に基づく量の見込みとその確保の内容等について説明。

【意見等】

（保育士の確保対策）

○委員からの意見

保育士の確保対策と、保育士不足が保育の質の低下につながらないようにしてほしい。

○事務局

保育士自身の負担軽減のため、保育士補助の雇上げへの助成検討や、県が今年開設した福井県保育センターの活用などしていただくことを考えている。保育士確保対策については市としても真剣に取り組みたいと考えている。

○会長

全国的に保育士不足は課題となっている中で、新しい人材も必要だが、辞めないようにする方策も必要。現在働いている保育士が辞めずに働きやすい環境づくりも必要で、園だけの力だけではできない。市の支援も必要である。

（男性の育児取得について）

○委員からの意見

男性の育児取得率が低い。国も男性の育児休業施策を掲げているにもかかわらず、どうしても取得率は向上しないのか。企業に助成金も支払われる制度をどうして活用しないのか。

○事務局

アンケート結果を見ても、夫が育児休業を取らない理由として、「妻が取得している」「忙しい」「収入が減り生活が苦しくなる」「取りにくい雰囲気がある」が挙がっていた。企業が取り組むかどうかについては、助成金の有無だけが問題ではないと考えている企業があ

るということだと思う。市の商工部門の方で、働き方改革（男性の育児休業や看護休暇など）に取り組んだ事業を支援する事業を始めている。商工の施策のメニューに、子どもの看護休暇の取得や、祖父母世代の子育てのための休暇などを盛り込めないかという観点で、市独自の支援策を検討しているところである。

○委員からの意見

事業所の立場から言えば、従業員が休んだら継続した事業運営は難しい。次の人を雇用するにしても、人手不足という大きな問題がある。

○委員からの意見

育児休業については、県内でそういった環境を整えているのはほとんどIT関連企業である。大野にはそのような企業が少なく、若者が働く企業が少ない。なかなか育児休業をとることは難しい。提案として、年次有給休暇5日の取得が決まっているので、これを育児休業に充ててはどうか。

（基本理念について）

○委員からの意見

「子どもがイキイキ、子育て世代が安心して子育てができるまち」と書いてあるが、「したくなるまちづくり」がいいんじゃないか。「できる」ではなく、「したくなる」がよいのでは。わくわく感を与えてくれるような。

また、地域まるごとという言葉があるが、国も地域全体で子どもを育てるというものがあると思うが、その整合性はとられているか。地域の人が皆参加して子育てに関わっていきますよという部分があってもいいのかなと思う。

○事務局

「社会全体で子どもと子育てを支える体制づくり」の中の、地域ぐるみの中において取り組んでいきたいと考えている。

（子育てマイスターについて）

○委員からの意見

九州では、60歳以上の方が1週間の研修を経て子育てマイスターとして、困っている家庭へ出向き支援している。そのようなサービスの取り組みについて。

○事務局

市のサービスに、冠婚葬祭などで子育てできない人に対し、シルバー人材センターに登録されている方が自宅へ行って行うサービス「すみずみサポート事業」があるが、利用率はとても少ない。家の中に知らない人が入ることへの抵抗感が大きいのではと思っている。

確保対策でも、ニーズの部分で、どのような形がよいのか検討しなくてはならないし、保育士だった方や子育てマイスターなどの資格をもった方なら、子どもを預けてもいいと

ということで言えば人材確保の観点から、どのような形にしていくと、皆が利用して効果的なサービスになるかという部分での検討は必要だと思っている。

(医療的ケア児について)

○委員からの意見

医療的ケア児の適切な支援というところで、医療が進んで在宅で医療的ケア児が過ごせる環境が整うが家族の負担が大きい。保育所、学校に移行していくという部分で、協議していくことが必要ですと計画に謳っていただいていることはありがたい。市内でも吸痰をしているお子さんがいるが、保育所に入るには看護師の支援を受けないといけない。また人件費も大きく市の財政負担にもなるが、大野市は子育て支援をしっかりとやってくれているということにもつながる。

ただ、市の施策としてはっきり出していただけるとありがたい。

○事務局

医療的ケア児の支援を施策の中に入れるかどうかは、実際、検討したところだ。本日ご意見もいただいたので、入れる方向で検討したいと思う。

(全体の構成)

○会長

視点の中の「身近な地域での支援の視点」と「社会全体での支援の視点」の区別があいまい。特に「社会全体での支援の視点」の説明が、一文で終わっている。他の視点はかなり説明がされている。「社会」というところを、もうちょっと文言を具体的に書いた方が良いのではないか。

また、基本目標4「子どもの育ちや自立への支援」は、文言だけ見ると、全ての発達段階につながる支援だと思う。しかし、中身をみると、学童期以上のことが書かれているので、中身とタイトルが乖離している気がする。

★印については、特に重点事項として取り組んでいくこととしている旨の説明があったが、重点事項というわりには、重点されているような文言ではないような気がするので、もう少し、重点事項としていることをアピールしていただけるような文言、見た目、内容も含めて、もう少し具体的にした方が良いのではないか。本日議論となったことも、重点事項と重なる。保育士の確保や交通安全対策、働きやすい職場環境など。工夫していただけるとよい。

○委員からの意見

カッコがたくさんあって、分かりづらい。見た目も含めて。

○事務局

分かりやすい表現を検討したい。

(結婚及び婚活への若者の考え)

○委員からの意見

7ページの円グラフは男女の比率が分からない。福井市もアンケート結果が出ているが、男女別の結果が掲載されていた。それをみると、男性と女性ではかなり思いが違っていることが分かる。なかなか婚活に結びつかないのは、男性と女性の思いが違うんじゃないのかという思いがする。次世代を創りたいのであれば、若者の気持ちに沿ったものにしていかないと結婚には結びつかないのではないかという気がする。婚活事業もそういったことを考えていかないとなかなか結婚には結びつかない。

○事務局

男女別に集計していないが、男女別で結果に違いがでるかもしれないという点で、してみたいと思う。

○会長

大野市としての大きな課題であるし、アンケート結果も男女について差があるかもしれないし、ないかもしれない。データから、基本施策1は、男性、女性の特徴から見えてくるものがあるかもしれない。それが、育児休業の取得などにつなげて考えられるのかもしれない。男女別のデータがあればみてもらって、それが大野市の子育て支援策につながるものであれば、ここに書き入れてもよいのではないか。

(いじめや不登校対策の充実)

○委員からの意見

不登校は不登校で、いじめはいじめである。とすると、この文言(「いじめや不登校対策の充実」)は、いじめが原因で不登校だと思われてしまうのではないか。いじめはいじめで別。いじめられていないのに不登校の子どもがたくさんいる。学校では、不登校問題が大きいんじゃないかと思う。そこを捉えていかないと次世代支援にはつながっていかないのではないか。

○事務局

児童生徒の部分については、教育委員会に実態等を確認し、いじめ・不登校それぞれについて書き方も含め検討していきたいと思う。

○委員からの意見

いじめや不登校対策の充実は、基本目標の4ではなくて、基本目標5に入ってくるのではないか。15ページの基本目標5のところ、すべての子どもの権利と自由を守るためとの記載もあり、いじめ・不登校は基本目標5に入るのではないか。

○会長

どこに視点を置くかだと思う。発達段階に視点を置くのであれば、いじめや不登校は学童

期の課題であり、特別な配慮という視点からすると基本目標5に入るので、事務局の整理によるので検討を。

(配慮を必要とする子どもと家庭への支援)

○委員からの意見

基本目標5の配慮を必要とする子どもと家庭への支援ということで、発達障害で障害者手帳を持っている子、発達障害でも障害者手帳を持っていない子どもへの支援について盛り込んでほしい。

○事務局

実際、市では、障害のある子ども、気がかりさのある子ども、すべての子どもの障害サービスをしている認識はある。なかなかその辺りが計画の中で伝わっていないことだと思う。検討したい。

(2) その他

委員、事務局ともになし

3 次回の会議

令和2年1月中

4 閉会

清水副会長より